

インターネット利用環境の変化に伴う 課題等について



2021年5月6日

安心ネットづくり促進協議会

インターネット利用環境の変化による新たな課題とは

- 昨今のインターネット利用環境の変化による新たな課題としては、どのようなものが考えられるか

情報収集の変化 ⇒ インターネットを利用した情報収集が小学生でもあたりまえに

- ◆ WEBブラウザ利用時にはフィルタリング機能によるサポートが必要になるが、これに加えて**機能の最新化や適切な設定など利用機器に関する知識についても関心を高める必要があるのではないか**
- ◆ アプリケーションサービスなどフィルタリングが機能しにくいものを利用するにあたり、**情報の偏りや欺瞞情報を見分ける能力習得の機会**が必要ではないか

コミュニケーションの変化 ⇒ インターネットを利用したコミュニケーションが一般的に

- ◆ コミュニケーションを**トラブルなく行えるように学習できる機会**が必要ではないか

情報発信の変化 ⇒ 低年齢から情報発信することが増加

- ◆ **「対象年齢」に基づいたサービス利用が前提**であることが保護者に認識されていないのではないか

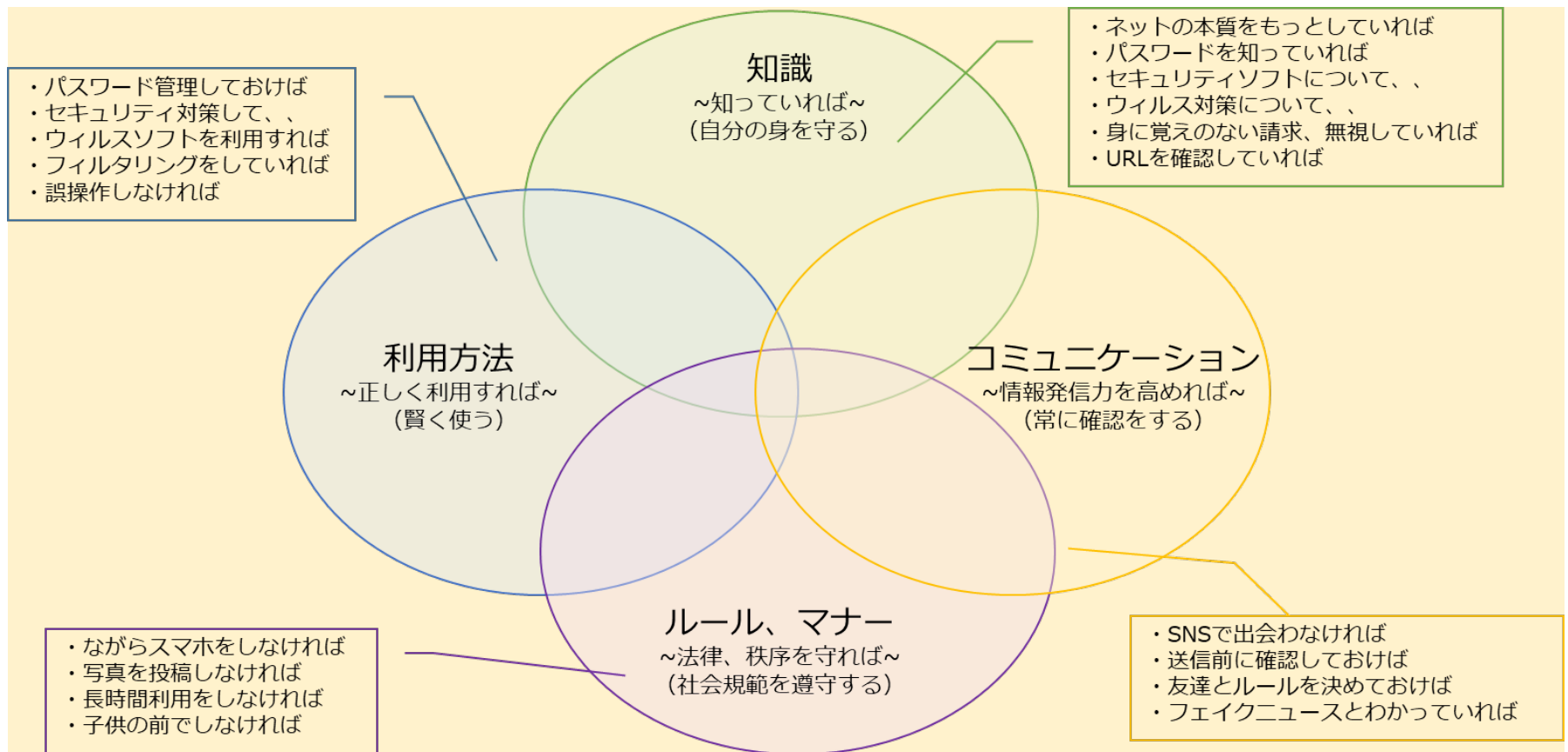
※東京都の調査（2020年4月発表）では各年代の保護者の4割が年齢制限について「知らなかった」と回答

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2020/04/06/02.html>

有害情報以外にも課題があることについて

- 青少年のインターネット利用に係る問題は、アダルト／薬物等の違法・有害情報へのアクセスに留まらないものであることを保護者に認識してもらうためには何が必要か

インターネット利用に関する課題全体を体系的に整理することで認識が高まる（分かりやすくなる）のではないかと ※下図は4つの「れば」からの分類したイメージ



家庭内ルール作成のための啓発方法等

- 子どもの成長に合わせた家庭内ルールを作れるようになるための保護者向け啓発が必要と考えるが、どのような教材や周知の仕方がよいと考えるか。

【教材について】

保護者がルール作成の必要性を感じられるよう、子どもの年齢や利用状況による特徴を想定した内容が必要ではないか（例：小学校低学年の保護者用教材）

なお、費用等の制約がある場合においては特に低年齢保護者に向けた対応が必要ではないか

【周知について】

学校と保護者との間の連絡方法が従来の紙ベース（保護者向けプリント）から、インターネット利用に変化する（している）ことが想定されるため、このような強力な伝達手段を利活用させていただくことが効果が高いのではないか

専用端末を持つ前段階での普及啓発

- 子供が未就学児や専用端末を持つ前である場合の普及啓発内容、方法や場所についてどのように考えるか。

【普及啓発内容】

長子の保護者は子どものネット利用の将来像がイメージしにくい（小学校や中学校になった段階でのネット利用の実態などが想像しにくい）と思われる

それによって家庭内ルール作成のタイミングを逃すことが生じないよう、ネット利用に関する課題などの全体像や学齢による変化などを伝えることが必要ではないか

【方法・場所】

未就学児の場合は、幼稚園等を通じた保護者へアプローチが、小学校就学以降の段階では、学校を通じた保護者へのアプローチが効果的であると考え（スライド3の「周知について」と同じ理由）

失敗体験を積ませることについて

- 効果的に失敗体験を積ませることで子どもの自覚を促すということも考えられるが、どのようにすれば良いと考えるか。

【情報収集】

詐欺サイトなどを疑似体験できるものが効果的ではないか

【情報発信】【コミュニケーション】

疑似体験できる仕組みが理想だが、実現が難しい場合にはこれまで同様に失敗例に基づいた啓発が良いのではないか

なお、総務省作成のインターネットトラブル事例集は、各事例について検討すべき内容やアドバイスがコンパクトにまとめられているので、このようなものが有効だと考える

セルフコントロール 青少年の自立に向けた啓発について

- セルフコントロールに関する調査やセルフコントロール方法の啓発をする必要があるのではないかと思うが、どのような点に気を付けるべきか。

【必要性について】

青少年のインターネット利用が、ペアレンタルコントロールから離れてセルフコントロールに至る過程を調査分析することは、効果的な啓発を行うにあたって必要だと考える

【進め方について】

保護者が子どもの自立を促すにあたっては、多種多様な考え方と方法が存在していることから、調査内容を確定させるにあたって十分な検討が必要ではないか

フィルタリングの役割について

- 「フィルタリングが何に使えるのか、何に役に立つのかということ保護者のほうがわからないと、フィルタリングの利用促進につながらない。」との意見が委員よりあったが、今後の対応についてどのように検討しているのか

青少年のインターネット利用に関する課題と対策については、スライド2ページのとおり、全体像を整理することによって、インターネット利用における様々な課題と対策において、フィルタリングの役割を明確にする必要があると考える

特にフィルタリングを意識しにくいと考えられる、子ども専用端末を持つ前の段階の未就学児の保護者向け啓発などを通じて、フィルタリングの役割などが効果的に啓発できる方法を検討していきたい

SMAJとの連携について

- 第12回TFにおいて、SMAJ様の発表の中で、「安心ネットづくり促進協議会と連携し、サービスの情報を活用した保護者の関与を促進する普及・啓発を進める」とのことであったが、現在の状況及び今後の見通しを教えてください。

SMAJ（ソーシャルメディア利用環境整備機構）が取りまとめるSNS利用上の注意事項は、SNSサービスを提供するうえで、利用者からの問い合わせ対応などのサポート実績に基づいた内容にされると思いますので、保護者がペアレンタルコントロールを考えるうえで関心が高いと想定される部分に常に焦点を当てることができると期待しています。安心協はこれらの情報が少しでも多くの保護者に伝わるよう引き続き啓発に努めます